

2019年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52324	障がい児保育 Handicapped Children Childcare	谷村 和秀	専門	2	選択	2年前期
科目の概要						
障がい児保育の授業では、いろいろな障がいの理解とその具体的な対応方法や技術の工夫を事例実践などから学ぶ。また保育における注意点や健常児との保育場面での様々な発達の援助をねらいとした保育なども扱っていく。障がい児保育は、障がい児のみを対象とするのではなく、クラス全体や園全体のどの子どもにも活用していくことが出来るものととらえ、学習する。						
学修内容			到達目標			
①障がい児保育を支える理念(障がいの概念、歴史等)			①障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について、障がい児及びその保育について理解する			
②障がいの理解と保育における発達の援助(身体/知的/発達障がい)			②様々な障がいについて、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する			
③障がい児保育の実際(指導計画や記録、生活や遊びの環境、育ち合い、職員間協働)			③障がいのある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践を理解する			
④家庭及び関係機関との連携(保護者支援、専門機関/小学校との連携、支援計画)			④障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。			
⑤障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題(保健・医療・福祉・教育、等)			⑤障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	調べ学習等の自発的な学習を行うことができる				
	働きかけ力					
	実行力	事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる				
考え抜く力	課題発見力	事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる				
	計画力					
	創造力	事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる				
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる				
	傾聴力	発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる				
	柔軟性	グループ討議の際、相手の意見も取り入れながら多角的に物事を見ることができる				
	状況把握力					
	規律性	他の受講者に迷惑がかからないよう私語はしない。授業中に携帯電話を不必要に操作しない。居眠りをしない				
ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献						
テキスト:野田淳史、林恵「シリーズ 保育と現代社会 学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と障害のある子ども」 未来 ※その他、プリントは適宜配布する。						
他科目との関連、資格との関連						
他科目との関連:児童家庭福祉、発達心理学、幼児理解 資格との関連:幼稚園教諭一種、保育士						
学修上の助言			受講生とのルール			
事例検討やシミュレーションを重ねることで、汎用的思考力である高次解釈(なぜ)と低次解釈(どのように)を自在に使えるようにすること。この別々の解釈水準の思考力を持つことで専門的科目の習得が容易になる。			調べ学習、発表、グループワーク、相互に教え合う等の活動に代表される、アクティブラーニング形式での授業に意欲を持って参加すること。 ほぼ毎回、課題プリントが課されるため、必ず提出すること			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験			
小テスト			
レポート	90	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓ ⑤ ✓	ポイント 1. 障がいのある子どもの特性が理解できているか。 2. 障がいのある子どもの支援の視点が理解できているか。 3. 障がいのある子ども対しての社会サービスが理解できているか
成果発表 (口頭・実技)			
作品			
社会人基礎力 (学修態度)	10	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓ ⑤ ✓	(主体性) ・調べ学習等の自発的な学習を行うことができる (実行力) ・事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる (課題発見力) ・事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる (創造力) ・事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる (発信力) ・グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる (傾聴力) ・発言者の意見を自分の立場に置き換えて、意図を汲み取りながら聴くことができる (柔軟性) ・グループ討議の際、相手の意見も取り入れながら多角的に物事を見ることができる (規律性) ・他の受講者に迷惑がかからないよう私語はしない。また、授業中に携帯電話を不必要に操作しない ※10点満点の素点を評価点とする。
その他			
総合評価 割合	100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について、障がい児及びその保育について理解する ②様々な障がいについて、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する ③障がいのある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践を理解する ④障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ⑤障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 ⑥総合評価 90 点以上は S(秀)、89～80 点を A(優)とする	①障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について、障がい児及びその保育について理解する ②様々な障がいについて、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する ③障がいのある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践を理解する ④障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ⑤障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 ⑥総合評価 79～70 点(良)、69 点～60 点(可)とする。

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	オリエンテーション、障がい児保育を支える理念を学ぶ	講義 調べ学習 グループ討議	「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷や、障がい児保育の基本が理解できる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
2週 /	視覚障がい児の特性と援助を学ぶ (視機能・視野障がい、眼球運動障がい、盲と弱視との違い、視覚障がい児の保育の基本姿勢、点字、声かけの基本、日常生活習慣の確立、遊びの支援、対人関係の支援、遊びの考案等)	講義 調べ学習 視覚教材によるモデリング学習とその要約 グループ討議	視覚教材も利用しながら、視覚障がい児の症状について理解できる。また、援助についてシミュレーションできる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
3週 /	聴覚障がい児の特性と援助を学ぶ (聴覚障がいのタイプ、ろうと難聴との違い、日常生活習慣の確立、声かけの基本、補聴器の取り扱い、対人関係の支援、集団生活の支援、保護者支援、遊びの考案)	講義 調べ学習 視覚教材によるモデリング学習とその要約 グループ討議	視覚教材も利用しながら、聴覚障がい児の症状について理解できる。また、援助についてシミュレーションできる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
4週 /	肢体不自由児の特性を学ぶ (肢体不自由の原因と障がいのタイプ、随伴障がい、乳児期の特徴、健康・安全、身辺処理動作、日常生活習慣の確立、生活関連動作の確立、対人関係の支援、遊びの支援、健常児の理解促進、保護者支援)	講義 調べ学習 視覚教材によるモデリング学習とその要約 グループ討議	視覚教材も利用しながら、肢体不自由児の症状について理解できる。また、援助についてシミュレーションできる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
5週 /	知的障がい児・言語障がい児の特性と援助を学ぶ (原因と特徴、日常生活習慣の確立、吃音・構音障がい、事例検討)	講義 調べ学習 視覚教材によるモデリング学習とその要約	視覚教材も利用しながら、知的障がい児・言語障がい児の症状について理解し、援助についてシミュレーションできる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
6週 /	発達障がい児の特性を学ぶ (診断基準、知覚・運動・認知の特徴、日常生活習慣の確立、支援カード(イラスト)の作成)	講義 調べ学習 視覚教材によるモデリング学習とその要約	視覚教材も利用しながら、発達障がい児の症状について理解できる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
7週 /	発達障がい児の援助を学ぶ(1) (発達障がい児への保育の基本姿勢、声かけの基本、日常生活習慣の確立、自傷行為・パニックへの対応)	講義 調べ学習 グループ討議	発達障がい児の援助についてシミュレーションできる。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性
8週 /	発達障がい児の援助を学ぶ(2) (対人関係の支援、遊びの支援、健常児の理解促進、保護者支援、受け入れ体制、事例検討)	講義 調べ学習 視覚教材によるモデリング学習とその要約	視覚教材も利用しながら、発達障がい児の援助についてシミュレーションできる(前回の続き)。	予習：テキストを読む。 復習：プリントを見直す。	90 90	主体性 実行力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
9週 /	保育課程に基づく指導計画、生活や遊びの環境、育ち合いを学ぶ (相談の基本的な流れ、アセスメントの方法、指導計画の立案)	講義 調べ学習 グループ討議	指導計画のためのアセスメント・実施をシミュレーションできる。障がい児の環境はどのように工夫しうるかシミュレーションできる。集団による育ちの意義を理解できる。	予習:テキストを読む。 復習:プリントを見直す。	90 90	課題 発 見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
10週 /	職員間協働を学ぶ (連携・連絡のポイント、役割分担、トラブル解決)	講義 調べ学習 グループ討議	職場で求められる協力関係、役割分担等について理解できる。また、実際の問題場面について解決手段のシミュレーションができる。	復習:プリントを見直す。	180	課題 発 見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
11週 /	保護者支援を学ぶ (社会資源の確認、専門機関との協同、保護者支援のポイントや障がい受容の事例検討)	講義 調べ学習 グループ討議	社会資源や保護者支援の要点を理解できる。また、実際の問題場面について解決手段のシミュレーションができる。	予習:テキストを読む。 復習:プリントを見直す。	90 90	課題 発 見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
12週 /	地域連携を学ぶ (社会資源の確認、連携・連絡・専門機関との協同)	講義 調べ学習 グループ討議	様々な地域の機関との連携方法が理解できる。地域の社会資源を活用するためのシミュレーションができる。	予習:テキストを読む。 復習:プリントを見直す。	90 90	課題 発 見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
13週 /	保健・医療における現状と課題、支援の場の広がりをつなぐを学ぶ (他職種の理解と連携・協同)	講義 調べ学習 グループ討議	保健・医療での今日的課題について理解できる。また支援の場がどのように選択肢としてあるのか等について理解できる。	復習:プリントを見直す。	180	課題 発 見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
14週 /	福祉・教育における現状と課題、支援の場の広がりをつなぐを学ぶ (他職種の理解と連携・協同)	講義 調べ学習 グループ討議	福祉・教育での今日的課題について理解できる。また支援の場がどのように選択肢としてあるのか等について理解できる。	予習:テキストを読む。 復習:プリントを見直す。	90 90	課題 発 見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
15週 /	全体の振り返りとまとめを行う	講義 質疑応答	障がい児保育の基礎的な理解と支援方法について自らまとめ理解できる。	予習、復習:テキスト該当箇所、プリントを見直す。	180	主体性 実行力 規律性

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力